



たら

1998 (平成10年)

10.25発行

No. 70

議会だより

○発行…太良町議会 ○編集…議会編集委員会

○〒849-1602 佐賀県藤津郡太良町大字多良1番地6 TEL 09546-7-2151



福祉ふれあいまつりでの1コマ (赤い羽根募金で活躍する中・高生たち)

平成10年度 9 月
一般会計補正予算に
4 億7,700万円

9月定例議会は18日開会

一般会計補正予算案17議案を一括上程

9月定例会が18日に開会、一般会計補正予算4億7740万円、17議案が一括上程。

会期25日まで一般質問21日、主な補正は総合福祉保健センター建設に3億5000万円、経済総合対策として、町道改良工事費2300万円、災害復旧事業費（公共、農林）5394万円等を原案どおり可決した。

太良町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例

生後満一年に達しない生児を育てている女子職員について、育児休暇の請求があつた場合には、一日二回それぞれ三十分の休暇を与えることになっている。この措置を男子職員にも適用されることに伴う改正

太良町育英資金の給付及び貸付に関する条例の一部を改正する条例

育英資金の給付額、貸付額の変更及び返還期間の短縮とともに「入学準備金」や「倍額貸付」を削除。

又「他の奨学資金を受付けている者」を資格及び決定から除外し、町内に「二年以上」住所を有する者の子弟であること、「学資の支弁が困難と認められる者」を追加し一部改正するもの

民生委員等の費用弁償支給条例を廃止する条例

民生児童委員は都道府県の地方公務員であるため、この条例を廃止するもの

平成九年度各会計の決算認定

一、町立太良病院事業会計

二、水道事業会計

三、太良町一般会計

四、老人保健特別会計

五、国民健康保険特別会計

六、山林特別会計

七、簡易水道特別会計

八、太良町漁業集落排水特別会計

以上、八会計の平成九年度歳入歳出決算の認定を求めるもので、決算に関する諸書類、行政実績報告書及び町監査委員の意見書を提出し、企業会計・一般会計等決算審査特別委員会に閉会中の審査を付託

平成十年度一般会計補正予算（第二号）

補正予算の主なものは、総合福祉保健センター建設費（平成十年度、十一年度の二ヶ年事業）の平成十年度本体工事費分を三億五千万円、消防格納庫・詰所建設補助金三百六十九万円災害復旧事業費（公共土木農地・農業施設・林道）五千三百九十四万円、総合経済対策事業費として町道改良工事費二千三百二十一万三千円等で、合計四億七千七百四十四万九千円の追加補正。

補正後の一般会計予算の総額は五十八億七百八十四万七千円である。

平成十年度老人保健特別会計補正予算（第一号）

前年度繰越金を予備費に計上する

ための予算措置

平成十年度国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

前年度繰越金の予算措置と人間ドック（百八十四名分）助成費等の追加補正

平成十年度山林特別会計補正予算（第二号）

一般会計所管の山林を山林特別会計へ移管したため、それに伴う森林組合賦課金六万円の追加補正及び繰越金六十一万三千円、積立金三十一万円の追加補正

平成十年度町立太良病院事業会計補正予算（第一号）

病院の建設改修工事費等八百十五万円の追加補正
補正後の町立太良病院事業会計予算の総額は七億五千六十八万円となった。

平成十年度簡易水道特別会計補正予算（第二号）

里地区簡易水道の揚水機設置費百十万円追加及び前年度繰越金の補正

ここが
知りたい

い
っ
ぱ
ん
質
問

要望、希望はどうなってるの

山口 光章 議員



危険箇所の対応は

問

夏休み前七月九日早朝大浦小学校の一年生の生徒が亀ノ浦地区の通学路を登校中事故にあった。

PTAとしても昨年の九月に通学路の危険箇所点検を行って町に要望したが、その矢先の事故であり行政の早い対応でガードレールを設けられたが事故があつてからでは遅すぎる。

行政のもとと真剣な対応を求める。

教育長

大浦小、中学校区にそれぞれ具体的な場所の指摘があり、ガードレール設置要望が三方所ほどあつてその中の一方所で転落事故が発生した。

問

交通事故は幾ら注意しても絶対ということはないのでさらに工夫を凝らしながら適切な指導に力を入れたいと思う。二〇七号線の観音崎前

の歩道が狭いということ

と、伊福下平建設事務所より先、湯牟田地区までの歩道がなく危険であること、又、北町の樋口サイクル裏のJ R横の片山線、油津の富田クリーニング横の水路にガードレールをといて要望をどのように対処されて行くのか。

建設課長

油津の富田クリーニング横の水路においては危険度が高い、早速今年度でやるように担当と話しているが、今年度中に早い時期にやるように今検討している。

観音崎前の歩道については、観音崎リック南側の土地の相談がなかなか出来にくかつたという理由であり計画は考えていた。

湯牟田付近の歩道については、一部J Rの方に広げられないので釜よし付近は用地を拡幅していくと、そして一部中村さん宅付近にかかるかは

きりしていないが歩道まで続けていくという形で今進めてもらっている。

北町踏切から学校へ行くJ Rと平行した栄町北町線については、あの部分でJ R用地であるため町では勝手にできないけどJ Rと交渉してやってみたいと思う。

陣ノ内ドライバー休憩所の公衆トイレの設置はどうなっているのか

問

平成三年、平成六年の議会で取り上げているトイレ設置の問題はその後七年もたっているが行政としての取り組みと進捗状況はどうであるか。

町長

ずっとその要望は続けていたわけだが七月に土木事務所に会い町独自でもやらざるを得ないし、つくってもらえれば、維持管理は町でやるからと強力に実情を説明して再度要望をした。

土木事務所は見積りをして予算要求について道路課と協議をしているという返事をもらっている。答が出なければ、あえて町でもこれはやりたいと思つていい。

公共施設などのトイレの管理は万全か

問

夏休みも終わり行楽シーズンも一段落したが、キャンプ場、海水浴場、野球場、その他の公共施設のトイレの管理が万全でないように見受けられるが、管理の在り方は。

商工水産課長

海水浴場については年間を通じて週一回で二人体制の二時間、竹崎城址展望台については年間を通じて一人で二時

公衆トイレを要望される陣ノ内ドライバー休憩所

問、中山キャンプ場についてはシーズン中のみ管理人が清掃しているが赤松橋公園内にトイレを計画しているの、キャンプ場と一体として年間を通じての清掃を計画したい。

問

他の市町村から訪れた人達に笑われないぐらいの清掃と管理は万全であつて欲しいと思うのだが。

町民福祉課長

油津児童遊園地のプール横のトイレだが、四十五年当時にできた為環境も悪く不衛生なので担当課の方でも清掃に努めたいと考えている。





環境ホルモンの心配ない給食センター



環境ホルモンと 景気倒産防止対策

坂口 久信 議員

問 環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）が溶け出して人体に及ぼす影響について、子供さんを持つておられる保護者の間には不安が広がっているが、町の学校給食に使っている食器、その他調理器具は、ポリカーボネート（PC）製の食器、器具は使用されていないか。また、使用されていたら、今後の対策は

教育長 幸いにして、町の給食センターでは、この環境ホルモンが溶出しないうポリプロピレン製の食器を使用しております。なお、今後とも関係機関と密接な連絡、研修を密にし万全を期したい。

問 町内の幼稚園や保育園について（PC）製食器は使用されていないか。
町民福祉課長 伊福保育園、多良保育園、松涛保育園の三ヶ所についても、（PC）製食器は現在のところ使用されていない。

問 使われていた場合、買いかえ等について町の対策は。
町長 買いかえは、町の措置費でまかなうので安心ください。

景気、倒産防止対策は

問 町内雇用の安定を図る意味からも土木建設事業をふやし、また十分な整備がなされていない生活基盤整備など、幅広く公共事業を行いつつ、また町独自産業の掘り起こしを考えるとどう思うか。また、景気低迷で町内企業にとっても資金面で銀行融資が非常に厳しく、町内企業においても倒産といった事態も起きています。この中で、町内から倒産企業を出さないためにも倒産防止緊急対策としての町の政策はあるか。

町長 町も、効率的な行政の運営と財源等を考慮しながら、国県等の事業を積極的に活用いたし、この事業を推進すると同時に、町単独に産業振興を図るための基盤整備事業を推進し、二十一世紀への町発展を念願し努力している。いずれにしても、もろの施策を講じて積極的に事業を展開し、太良町に住んでよかったと実感できるような町づくりを目指して努力していきたいと思っている。

問 また、町融資制度資金も三カ年平均で四十四%利用という結果で、融資枠としてはまだまだ五十%以上余裕があるので利用されたい。

問 町融資の手續を簡素化できないか。
商工水産課長 今の審査の段階としては、商工会、役場、金融業等の審査会をやり、それを県の信用保証協会の方に審査をお願いする形をとっている。今後、町の審査会の中では、ある程度簡素化できるように検討したいと思っている。

問 JR広江鉄橋下の道路の切り下げと排水対策はできないか。
町長 鹿島土木事務所長に要望したが、切り下げると満潮時に海水の侵入や大雨のとき排水ができなくなり通行不能になるおそれがあるので、切り下げるのは困難であるとの返事をいただいているが、積載車に重機を積載しては通行できないので、今後も県と協議していきたい。

問 介護保険制度は町単独でやるのか、又、杵藤広域圏に加入するのか。
町民福祉課長 今のところ町単独でやる考えで進めている。

問 介護認定の事務については、一市三町と一緒にやることで意思統一がなされているか。
町民福祉課長 第一号被保険者の六十五歳以上の方々については、老人短大や各老人クラブの会合の折に説明している。

問 介護保険の学習会は考えているのか。
町民福祉課長 第一号被保険者の六十五歳以上の方々については、老人短大や各老人クラブの会合の折に説明している。



公共工事の 入札等の改善を図れ

山崎 貞雄 議員

予定価格の 事後公表を急げ

問 公共工事をめぐり、贈収賄・入札妨害などの不祥事件などが発生して、公共工事の入札に対する信頼が大きく失われていることから、自治省は建設省との間で入札・契約手続き改善推進協議会を設けて、その改善策を平成五年十二月二十四日付で地方公共団体に通知を發し、主に、指名基準の策定・公表・入札経過及びその結果、並びに発注基準の公表による指名競争入札の透明性及び公平性の確保が掲げられている。

また、平成八年には、公共工事に係る入札等の改善を早急に実施されるよう、これまで数度に亘り要請を行っているが、市町村を中心として未だその改善の趣旨徹底が十分であるとし、公共工事に係る入札の透明性・競争性の一層の向上を図るため、その運用のさらなる改善に取り組むよう、県を通じ管内市町村に周知徹底するよう強く要請がなされている。そこで

従来発注入札された町工事の主な事業の予定価格・契約額・落札率はいくらか。

町長 県内市町村は公表していないので、近隣市町で協議していきたい。

問 町長答弁は通告書に従った答弁になっていない。これでは質問の続行はできない。

副議長 公表できないという答弁であるので承知されたい。

問 公表できない理由は何か。

町長・助役は、自治省からの要請公文書には閲覧・捺印もしている。

十分承知のとおりであり、町民に対し胸を張って公表すべきではないか。

助役 自治省の見解であれば、そういうことに我々も勉強していかねばならないと思っている。

問 平成十年三月に閣議決定された、規制緩和推進三ヶ年計画によると、十四項目が規制対象に掲げられている。

その中に、予定価格の事後公表については平成十年度の早い時期に実施するよう要請がなされている。

多くの先進自治体では予定価格の事前公表も進んでいるが、町長は事後公表も否定している。

行政執行に当たっては法令、条例、規則、上級官庁の通知等を遵守する義務があると思うが、どのように認識しているか。

町長 遵守しないことによつて処罰でもうけることであれば別だけれども、そうでない場合は準ずる必要はない。

問 平成七年度屋根付ゲートボール場の新築工事と平成九年度、道越環境広場屋根付ゲートボール場の落札額はそれぞれいくらか。

課長 平成七年度ゲートボール場の契約額は二千六百三万円である。

平成九年度ゲートボール場の契約額三千四百十二万五千円である。

問 多良地区の屋根付ゲートボール場の落札率はいくらかと聞いている。建設課の資料によると、道越広場のゲートボール場の契約額は三千四百八十六万七千円となっているが、課長の答弁と金額が違いますが、どうなっているか。

競争について

問 施行令第六十七条に規定されている最低制限価格を設ける場合は、予定価格の十分の七から十分の九までの範囲内で制限価格を設けることがで

きるようになってきているが、透明性、競争性を高め公共事業の信頼性と財政の効率運用を図る観点から制度を導入してはどうか。

町長 制度の導入については、県下の状況を見ながら検討したい。

さざんか高原の拡幅舗装された町道





太良町独自の「活性化構想」を

田口 靖 議員

問 新農基法の制定へ向け

て、調査会から答申案が提出され、林野庁も林野行政の転換方策を提示しているが、国の農林行政の転換の時期に際し、四項目について質問する。

問 (一) 町内にある国有林百七十四haは管理が不十分である。

燕田・大野地区でやられている「集落水源山地整備事業」で水源ダムを作ったり、国の全額負担で間伐施業などできるように、県と相談して条件整備する考えはないか。

町長 町内の国有林は、人工林百三十六ha、天然林三十ha、その他が八haであり、ご指摘のとおり管理が不十分である。武雄森林管理センターとも十分協議して、機能の高い森林の整備へ向けて、要望を強めていく。水源ダム建設や間伐施業も、やはり何らかの方策を思っている。

問 (二) 二千五百haの保安

林は、県内では富士町に次いで二番目に広い。関係者の大変な努力の結果であるが、今後の取り組みはどうか。

町長 木材価格の低迷、林業担い手の減少・高齢化と課題も多いが、撫育事業の推進、広葉樹林の育成など保安林の整備に一層努力したい。

問 (三) 分収林の分収比率

を改める考えはどうか。

町長 八集落、十三分収造林組合と約七十ha、六対四の比率で契約しているが、変更は慎重にしたい。

問 (四) 中山間地域総合整備事業の進捗状況はどうか。

町長 中山間地域総合整備事業の進捗状況はどうか。

土地改良課長 基本計画書や地域活性化構想図の作成作業に着手し、地域の意見、希望を聞いて進めている。長期計画を基本として活性化に資する事項を取り上げ、地域特性を生か

した振興が狙いである。

このため、地域住民との話し合いを十分持つて作業を進めていく。

問 町の活性化の基本は農林業の振興であり、今後の温州みかんが主幹作物に変わりはない。

町長 平成九年二月作成の太良町農林漁業等活性化基盤整備事業計画にJAたらの四選果場を二つに整理する案があるが、これらの事業も活性化構想として取り組むのか。

町長 みかんは選果体制が基本で、省力化は不可欠であり、やはり、時代に即した整備が必要だろうし、行政として協力は惜しまない。

問 サイン計画では、今年度事業として約九千三百万円をかけて、町内に七十二基の案内板が設置されている。

町長 サイン計画では、今年度事業として約九千三百万円をかけて、町内に七十二基の案内板が設置されている。

新たな拠点のシンボル施設を

問 サイン計画では、今年度事業として約九千三百万円をかけて、町内に七十二基の案内板が設置されている。

太良町の観光開発のイメージチェンジに大きく

役立つと期待されるが、この事業の中心であるシンボル施設や産業振興方策の取り組みはどうか。

町長 シンボル施設の建設構想は、産業および生産基盤の整備を図るために物産・情報・物産加工施設を統合したものをつくり、町の新たな経済活動の拠点づくりである。

場所事業内容の検討を進めているが、商工会でも商工会等地域振興対策事業計画を策定中であり、連けい協力をはかり具体化したい。

問 アドバイザー事業の報告をお願いしたい。

企画課長 太良町が目指すリゾートの方向性、町の特性を生かすリゾート整備、「月の引力が見える町」のリゾート整備の実現性を基本として、アドバイスをいただいた。

観光協会、商工会、農

協、漁協など一体となつて観光事業を推進するため、組織の連帯を強めることの必要性も、その中で特に指摘された。



好調な市況のたらかん選果風景



堆肥センター建設 いつ頃か

恵崎 良司 議員

問 昔から「衣食足って礼節を知る」あるいは「恒産なくんば恒心なし」と言われているように経済的基盤あつてこそその文化や福祉である。

現在のような厳しい経済状況になつてくると、改めて力強い産業の町づくりが土台であり、ここに力点を置いて正面から取り組むべきで、とりわけ基幹産業である農業の再生を将来へ向けての重要課題としてとらえ直し、原点に返つて検討する必要があると考える。

産地ブランドの確立すなわち付加価値の高い農業の展開という課題に異存はないが、行政として具体的な施策はどう進めるのか、どのような将来構想を持つて産地づくりをしていくのか、という視点が求められている。

農業の原点は良質な土づくりにあるところだが平成九年二月策定の計画書にある有機質製造センターは、本物産地としての地域づくりに必要不可欠な施設と思うが、いづろ建設する計画か。

町長 まず農家や農協等の

合意形成が大前提であり、その他場所や経営組織、建設費、ランニングコストさらに堆肥の調査研究等の課題が山積しており現在具体的な目途が立っていない。

しかし環境保全型農業への取り組みの重要性については十分認識しており、農協等でも堆肥・有機物の投入による土づくりを掲げて奨励されているようだ。

リーダーシップは

問 合意の形成は当然であり、合意形成が出来るまで行政が待ちの姿勢で静観していたのでは、行政のリーダーシップやその存在意義はないのではないか。

特色ある独自の町づくりには、やる気を起こさせる仕掛けや合意の形成に向けた取り組み、そこに行政の出番があるのではないか。

町長 過去何回か議員の質問は有機農業について問われているが、営農じゃない自分の環境、命を守るためには助成措置はやぶさかではないが、農業経営、農業団体について

は合意が大前提である。今回は土づくりであるがこの点について先様の方から打診があつてこういうしたいがということでは過去あつていない。行政はこうなんだが、おたくはどうなんだと話を進めている。農業還元型の事業とするならば一面で赤字が出る

でも産地形成のためには行くべき道ではないかと。あなた方が手を挙げないと町でやる訳にはいかないの一緒にやろうじゃないかと提案している。

問 私がいつも思っているのは、活力ある自治体というのはいくかということであり、魅力ある町づくりをしていくのかということであり、魅力ある町づくり

くりをしていくソフト、ここが根本的に一番重要じゃないかと思つている。町長の立候補のパンフレットに「百年の大計づくり」という気宇壮大な標語を掲げておられるが、私は単なる言葉遊びとは思いたくない。

その辺をもっと気概を持って明確な目標やビジョンを打ち出すべきだ。

町長 頂点に立つて行政を行つていくからにはそれなりの姿勢がなくてはならないのはそのとおりであり、そのようなことは今後も肝に銘じて進めていく心算である。

問 百年の大計づくりを具体化するために、農業の再生のための構想を戦略的視点に立つて総合的に検討するシンクタンク的な農業戦略会議を創設してどうか。

町長 整備推進に向けた調査研究、検討をしていく。



畜産発酵堆肥センター（個人施設）



水源地の屋根は老朽化がひどい



簡易水道施設の 安全対策は

末次 利男 議員

な飲料水が、将来に渡って完全給水可能な条件整備が永久的に大きく前進したと思うが施設の取水状況と、水質の検査方法について問う。

町長 その簡所は、現地視察したが、あんなに長い区間水路では非常に危険と思う。

問 近年気象

異変による

自然災害や、毒物事件など人的災害が、列島各地で甚大な被害が後を絶たない。昨今であるが、昨年のO-157対策や焼却炉のダイオキシ

ン問題等、事が起きてからの対策が目立つ中で、簡易水道施設についてであるが、最も安全にして良質清浄な水を各家庭一七二四戸、七五六三人に完全給水

して、公衆衛生の向上と生活改善、福祉の増進に寄与することを目的として簡易水道六施設、飲料水供給施設五施設、簡易給水施設二施設は改善、整備、漏水防止等に大変な努力をされている。

問 簡易水道施設の耐用年数であるが、十三施設中古くは三十九年給水開始で、三十四年の年月が経過している。

特に、平成六年の未曾有の大かんばんの苦い経験を生かして、順次計画的に安全で安心な恒久施設への転換が着実に進められていることに対し、その姿勢は高く評価させて頂いている。

取水状況は、水源井七施設、表伏流水六施設であり、水質検査については、水道法で義務づけられており、毎月定期的に水質検査を実施している。

水道課長 昭和四十年から順次六十三年までに、簡水及び飲料水供給施設の整備がなされたが、耐用年数は、取水施設については四十年、削井等については十年、配管等については、鑄鉄製のものが四十年、V P ビニール管が二十五年となっている。

さらに、水源の森として多良岳一帯の自然林購入、経ヶ岳一帯の人工林を含む自然林購入と、県による帆柱岳一帯の購入と合せて五四五ヘクタールの公有林化が実現したことは、全国的に進む環境林としての公有林化が先駆けとして県内外から高く評価を受けている。生活上、必要不可欠

問 一般質問に当り十三施設を調査した限り、取水方法、安全性、衛生上から見て中尾簡易水道施設は早急な対策を検討する必要があると感じた。

時代背景を考えると、危険とも思える施設であり、給水開始から二十一年間、大事に至らなかつたのが不思議な位である。具体的に改善策は考えていないか。

常任委員会の活動

たら漁協を現地調査

経済常任委員会

ノリ養殖 コストダウンに全力

経済常任委員会では、去る七月二十八日たら漁業協同組合を調査した。

当漁協は多良本部漁協と太良中央漁協が、昨年九月一日合併、組合員数百二十二人、海苔養殖が主体の漁協である。

平成五年度四十三戸、七億一千万円の生産額も毎年減少、平成九年度は三十五戸、四億八千万円、コスト引き下げが課題のようだ。

アゲマキは、平成二年頃から生態変化で全滅、韓国中国から導入しても三年後に死滅、原因も不明のままである。

さらにアサリ貝も昨年は長雨で死滅し、漁獲はなかった。

また、製氷、冷蔵施設が老朽化、ガス洩れ故障で利用できず、経営中止が決定されているようだが、冷凍ノリ養殖には、冷凍網を保管する冷蔵施設としてなくてはならない。

このため「新沿岸漁業構造改善事業」として、施設の新設を決め、平成十一年度採択を県や町に要望されている。

新しいノリ養殖経営の展望として、平成七年度から「協業化モデル経営体設置事業」を積極的に推進、行政の支援・協力が望まれるが、漁業経営の安定を図るためには、生産者も行政も一体となって、漁業振興に努める必要がある。



製氷・冷蔵施設の管理室

主要事業 十七か所を視察

建設常任委員会

建設常任委員会では、去る九月七日町長、助役・建設課長・係長の出席を得て、県営事業と町主要事業の説明を受けたあと、町内十七か所の現地踏査をやった。

町道改良については、本年度は、事業費で約四十七%の発注状況。国、県では景気浮揚対策として、公共事業の前倒しを上半期で八十二%と定め努力されているが、本町でも未発注か所は町民の負託に応え、発注の平準化、早期発注、早期着工へ向け努力されたい。

町道の全路線についても拡幅・改良の計画的推進を要望した。

竹崎漁港漁業集落環境整備事業については、平成十二年度完成目標で、本年度は排水管工事をはじめ、このため一時的不便も伴うが、施工には創意工夫されて



町道野上線附近の現地調査

早期完成を願っている。県営事業では、本年度着工される片峰地区の急傾斜地崩壊対策事業など、計画実施されている。

県営竹崎、上田古里線道路整備事業は、平成十二年度完成予定だが、最大工事のJ.R跨線橋着工に全力を期待したい。

現地調査の際各委員から提言されたことは、十分な調査研究を要望する。

太良町VIサイン計画

よりよい町づくりへGO!

た21世紀ゆたたりプラ
 ン太良町新総合計画、基本
 構想をもとに太良町VI総
 合サイン計画を平成八年度
 に策定し、太良町の活性化
 情報発信、イメージ戦略の
 一環として、太良町PRビ
 デオの制作、インターネッ
 トホームページの開設、シ
 ンボルマークの制定など
 力を注ぎ入れた。なかでも
 太良町活性化の手段として
 サインがもつ2つの特性
 (①景観装置、②費用対効

果)を活かし、総合的に整
 備することにより、太良町
 の活性化に取り組み、本年
 度で公共サインを整備し、
 特に町内観光施設のイメー
 ジアップと観光誘致のため
 の施設整備、又交流人口
 の増大を図るという目的の
 為に進行中である。太良町
 内合計72基のサインが皆様
 の目につくはずである。な
 かでも一番大きい歓迎塔は、
 月の引力が見えるまちにふ
 さわしいサインであり、み
 かとカニをデザインした
 サインは、太良町のイメー
 ジアップの為に、将来的に
 非常に役立つしるものだ。



太良町歓迎塔サイン

議会のあゆみ

7・1	武雄・鹿島政経セ ミナー	7・15	中山キャンプ場 山開き式	8・8	ミナー 第七回太良町納涼 夏まつり
7・2	国道二〇七号改良 促進期成同盟会定 期総会	7・16	議会臨時会 基山町議会行政 視察来町	8・16	たら「竹崎かにと 温泉まつり」 太良町消防団夏 季点検
7・6	太良町教育振興会 企業会計・一般会 計等決算審査(13 日まで)	7・21	例月出納検査 郡議長局長会議 太良町健康づく り大会	8・18	例月出納検査
7・7	太良町観光協会通 常総会	7・28	佐賀空港開港記 念式典及び講演会	8・19	随時監査(備品)
7・8	議会だより編集委 員会	7・29	経済常任委員会 西部地区開発推 進協議会総会	8・20	監査委員研修会
7・10	白浜海水浴場海 開き式	8・1	藤津・鹿島農林業 地域再開発推進協 議会	8・21	太良町交通安全 多良支部会
7・14	青少年育成町民 会議	8・4	村圏組合協議会 環境問題トップセ	8・21	太良町ふるさと まつり実行委員会 太良町シルバー 人材センター設立 総会
7・14	杵藤地区広域市 町村圏組合全員協 議会	8・4	村圏組合協議会 環境問題トップセ	8・25	町村議会広報研 修会(28日まで)

編集室より

佐賀空港のすべり出しも
 予想以上に良く、大変活気
 に満ちた盛況振りでありま
 す。

現在のところ、台風の県
 内通過もなく、みよりの秋
 にふさわしい今日でありま
 す。

本町のみかん、米の出来
 も良く喜ばしいことであり
 海苔の豊作も期待致します。
 尚、今迄にない金融の不
 況で景気の見通しに不安が
 あり、一日でも早く景気の
 風が吹いて安心した生活が
 出来ることを願っております。

編集委員会	
委員長	木下 繁義
副委員長	山口 光章
委員	坂口 久信
委員	岩島 好
委員	田口 靖
委員	恵崎 良司